

心臓血管外科ペースメーカー外来業務のグレードアップ ～心臓血管外科外来と臨床工学部の協力による院内完結型フォローを目指して～

飯塚病院 心臓血管外科・臨床工学部
臨床工学部 井桁 洋貴

テーマ選定理由

従来、ペースメーカー植込み後の外来フォロー及び他科手術には、メーカー技術者が立会い、プログラマによる設定および各種検査を行うことが慣例であった。しかし、厚生労働省通達にもとづく業者立会い規制が平成20年4月より施行され、ペースメーカー外来、ペースメーカー植込み患者様の他科手術時立会いにおける業者立会いにも、多大な制約を受けるようになった。また、診療補助行為に対する医療資格の問題や個人情報管理の観点などからも、院内スタッフによる院内完結型フォローに移行することが望ましいと考え、業務改善を行ったことから上記のテーマとした。

① 目標の設定

- ① メーカー技術者によって行われているフォローアップ外来時のプログラマ操作業務を、当院臨床工学技士に移行し、院内ペースメーカー外来業務を病院スタッフのみで行えるようにする。
- ② 植込み患者の他科手術施行時の立会いに関して、当科外来、MEのみでのバックアップ体制を確立する。

② 開発すべき問題点

1. ペースメーカー業務を行う技師の確保
2. 当該臨床工学技士の植込み型ペースメーカーに対する知識の習得
3. ペースメーカープログラマの操作技術の習得
4. ペースメーカー植込み患者の他科手術時の連絡体系の確立

③ 設計・開発

1. 臨床工学部による担当技師(当院臨床工学技士)の選択と業務調整
2. 植込み型ペースメーカーに対する知識習得のための各種講習会、メーカー研修への参加、勉強会の開催
3. ペースメーカープログラマ操作技術習得のためのメーカー研修への参加、勉強会の開催、臨床研修
4. ペースメーカー植込み患者他科手術立会い時の当科外来を中心とした連絡システム(intranet 上の申し込み用紙掲示などの整備)、周知活動

④ 効果(達成度)確認

現在、フォローアップ外来の約90%が当院技師によるフォローアップとなっており、メーカー担当者は未だ同席しているものの、特に旧式のペースメーカーなどを除き、院内スタッフのみで対応できる状態となっている。また植込み患者の他科手術時の立会いも、院内スタッフのみでの対応も可能な状態になりつつある。

サークル	チーム名	飯塚病院 (平成19年8月結成)				
リーダー氏名 (職種)	井桁 洋貴 (医療技術)	所属部門	診療	看護	月あたり会合回数	2回
リーダー経験年数	2年		医療技術	事務管理	平均会合時間	60分
メンバーの数	計6名 うち男 5名 うち女 1名	QCストーリー	問題解決型	課題達成型	平均会合出席率	80%
		活動内容	質	能率 CS 安全 モラル コスト	テーマ歴 (このテーマで)	1件目

⑤ 波及効果

当院技師が複数メーカーのプログラマを操作するため、メーカー毎に外来日や診療順序を調整する必要がなくなり、診療予約の効率および患者様の利便性が向上するものと思われる。また、技師が在院の場合、救急搬入などの緊急対応についても迅速な対応が可能となる。さらに、現在は併用している業者立会いは有償であるが、この分の経費削減にもつながる。

⑥ 標準化・水平展開

定期的な勉強会の開催と研修会への参加を行い、知識の維持・向上を行っていくとともに、随時、開発・販売される新機能・新機種については、メーカー研修などにも参加し、知識・技術の更新を行っていく。また、ペースメーカー植込み手術時の業務の院内完結めざし、さらには ICD、CRT など他の不整脈デバイスに関しても同様の手法を用いて院内完結型の診療体制の確立を行っていく。

⑦ 反省と今後の課題

外来患者のフォロー漏れに関して、現在当科外来データベース(外来看護師福村作成・管理)とメーカーデータベースとのダブルチェックを行っていたが、今後全て当科外来データベースのみにて行うこととなるため、当科のデータ管理体制の強化(おもには医師の業務徹底)が必要と思われる。また、技師不在時の緊急対応の体制づくりと、ペースメーカー対応可能技師を増加させるための教育システムの構築も必要と思われる。